

福井新聞

発行所
福井新聞社
 福井市大和田2丁目801番地
 郵便番号 910-8552
 電話 0776(57)5111
 読者センター 57-5140
 © 福井新聞社 2013年

繊維機械製造販売 常盤商事(福井)

繊維機械製造販売の常盤商事(本社福井市運動公園4丁目、藤原義典社長)は、白内障の治療などに使われる人工の眼内レンズ用の超音波洗浄機を開発した。9月下旬に東京都内で開かれた国際産業洗浄展に出品した際には医療関係だけでなく、福祉、自動車関連など約120社から問い合わせがあった。同社は注射針用の洗浄機開発にも着手しており、医療分野への本格参入を目指す。(堀英彦)

眼内レンズ洗浄機開発

9月 国際展で引き合い多数

医療分野本格参入へ



同社は、細かい糸くずが残る繊維用の超音波洗浄機や、表面をけぼ立たせた起毛測定装置などが残る繊維用の超音波洗浄機を開発してきた。繊維の海外生産ソフトに伴い国内

需要が頭打ちになったことから2007年、ホテルのルームキーやカードキー用の洗浄機を商品化した。09年に都内で開催された国際産業洗浄展に出品したところ、医療機器メーカーなどからも引き合いがあり、医療分野への参入を決断。このほど眼内レンズ用の洗浄機を開発し、愛知県のメーカーに納めた。

洗浄機は眼内レンズ製造の最終工程で使用。8槽からなる装置本体の長さは約5mで、6槽で超音波による洗浄を行い2槽で熱風乾燥する。超音波の発振器や振動子は各4台設置している。

同社で設計を行い、発振器や振動子の製造、本体の組み立ては韓国メーカーに依頼することで、他社製品より価格を抑えた。メンテナンスがしやすいように、ポンプやフィルター、ヒーターなどほとんどの部品は国内で調達した。

9月25日から3日間、都内で開かれた同展では、開発した洗浄機を紹介するパネルや、別の種類の洗浄機の実物を展示。幅広い業種の約120社から、胃カメラ、車いす、ベッドパッド、自動車部品、カーブミラーなどの洗浄について問い合わせがあったという。

藤原社長(61)は「展示会では問い合わせが多く手こずった。成長産業である医療介護分野に積極的に参入していきたい」と話している。

東京都内